

2 火災編

火災概況

出火件数及び種別

件数

令和5年の出火件数は86件で、前年より2件増加した。

種別

火災種別ごとに見ると、「建物火災」が70件で全体の81.4%を占め、前年と比較して15件増加した。

「車両火災」は7件で前年と比較して5件減少、「その他の火災」は9件で前年と比較して8件減少した。

損害額

火災による損害額は1億4,874万1千円で、前年と比較して5,566万7千円増加した。これは住民1人当たりでは448円、1日当たりでは40万8千円であった。

焼損床面積

火災による建物の焼損床面積は4,047㎡で、前年と比較して867㎡増加した。焼損表面積は207㎡で、前年と比較して71㎡減少した。

死傷者

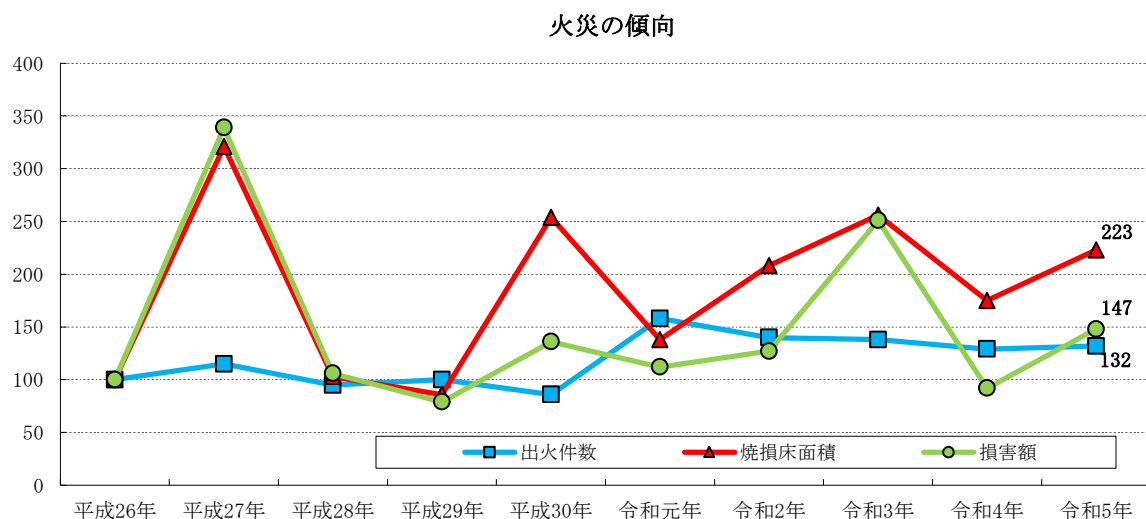
火災による死者は8人と前年と比較して5人増加で、発生した死者は「建物火災」によるものが6人、「車両火災」によるものが1人、「その他の火災」によるものが1人であった。死亡に至った経過は、「逃げ遅れ」が3人、「放火自殺」が2人、「不明」が3人となっている。

火災による負傷者は22人で、前年と比較して7人増加している。また、負傷者のうち1人は火災に起因する原因で発生から30日以内に死亡している。

出火原因

出火原因の第1位は「ストーブ」で14件、第2位は「たばこ」と「配線器具」が同数で6件、第4位は「こんろ」と「放火・放火の疑い」が同数で5件となっている。

(指数) 平成26年=100



火災発生状況（前年比較）

年 区分			令 和 5 年	令 和 4 年	増 減
出火件数	合 計		86	84	2
	(爆 発)		－	－	－
	建 物	小 計	70	55	15
		全 焼	14	16	△ 2
		半 焼	10	6	4
		部分焼	13	16	△ 3
		ぼ や	33	17	16
	林 野		－	－	－
	車 両		7	12	△ 5
	そ の 他		9	17	△ 8
焼 損 面 積	建	床面積(㎡)	4,047	3,180	867
	物	表面積(㎡)	207	278	△ 71
	林 野(a)		－	－	－
損害額 (千円)	合 計		148,741	93,074	55,667
	建 物		112,476	78,714	33,762
	収 容 物		27,594	12,124	15,470
	林 野		－	－	－
	車 両		8,391	1,419	6,972
	そ の 他		280	817	△ 537
	爆 発		－	－	－
焼 損 棟 数(棟)			92	80	12
り 災 世 帯 数			80	61	19
り 災 人 員			140	92	48
死傷者数	合 計		30	18	12
	死 者		8	3	5
	負 傷 者		22	15	7
	30日死者		1	－	1
出 火 率			2.6	2.5	0.1

※ 出火率＝人口1万人当たりの出火件数を示す。

市・道・国の火災発生状況比較

【年】

区分		旭川市消防本部	北 海 道	全 国
出 火 件 数 () 内は建物火災件数		86 (70)	1,587 (963)	38,659 (20,968)
損 害 額 (千円)		148,741	4,174,787	93,915,275
焼損面積	建物焼損床面積(m ²)	4,047	60,149	1,017,598
	建物焼損表面積(m ²)	207	6,180	129,732
	林 野 (a)	-	5,131	82,943
焼 損 棟 数 (棟)		92	1,284	30,222
り 災 世 帯 数		80	745	18,767
死 傷 者	死 者	8	68	1,500
	負 傷 者	22	215	5,731
1 日 当 た り の 出 火 件 数		0.24	4.35	105.92
時 間 と 出 火		101時間52分に1件	5時間31分に1件	14分に1件
1 件 当 た り の 損 害 額 (千円)		1,730	2,631	2,429
建物火災1件当たりの焼損床面積(m ²)		57.81	62.46	48.53

出火原因

【年】

原因	順位	1	2	2	4	4	6	7	7	7	7	7	12	12	12	12	—	—
火災種別		ス ト ー ブ	た ば こ	配 線 器 具	こ ん ろ	放 火 ・ 放 火 の 疑 い	電 気 装 置	排 気 管	電 灯 ・ 電 話 等 の 配 線	マ ッ チ ・ ラ イ タ ー	灯 火	取 灰	炉	電 気 機 器	衝 突 の 火 花	火 入 れ	そ の 他	不 明 ・ 調 査 中
合計	86	14	6	6	5	5	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	16	17
建物	70	14	3	5	5	2	2	1	2	-	2	2	1	1	-	1	14	15
車両	7	-	1	1	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
林野	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	9	-	2	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	2
爆発	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

「非火災」発生状況

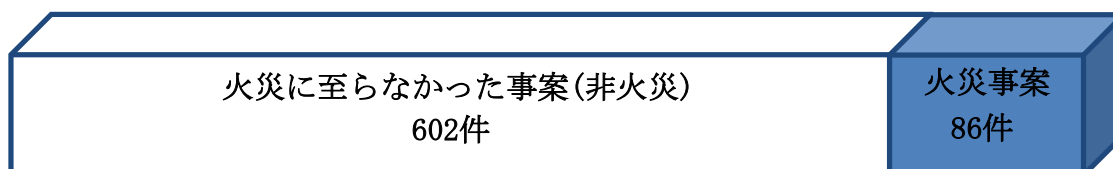
火災に係る消防隊の出動件数は688件で、このうち602件が火災に至らなかった事案「非火災」であった。

時間が経過すると火災になる危険が高かった非火災は14件であった。

また、火災になる危険が高かった非火災のうち、緊急通報システム「ホットライン119」によって自動覚知・自動通報され火災に至らなかった事案は0件であった。

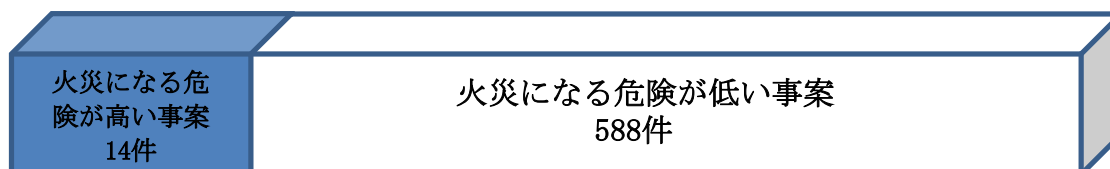
○ 出動件数688件の内訳

【年】



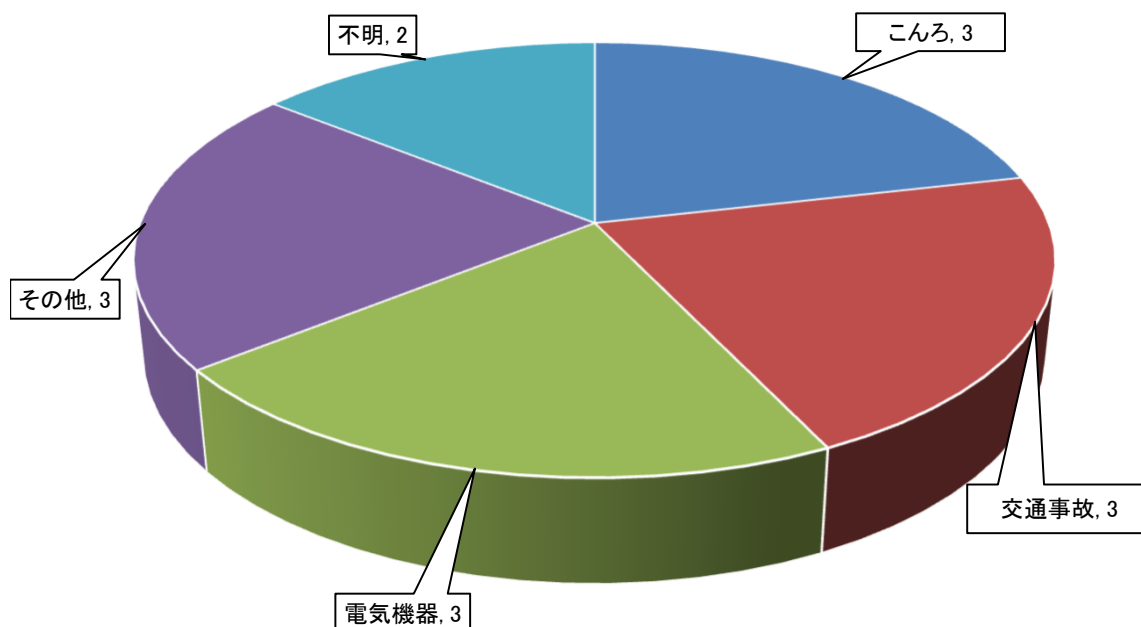
○ 火災に至らなかった事案（非火災件数）602件の内訳

【年】



○ 火災になる危険が高かった非火災の原因（14件の内訳）

【年】



住宅用火災警報器の設置状況

消防法の改正により、平成23年5月31日から住宅用火災警報器の設置が全住宅に義務付けられた。これに伴い、出火建物における住宅用火災警報器及び自動火災報知設備の設置の有無、発報(作動)の有無について、昨年と比較する形でまとめた。

建物火災にあつては70件あり、そのうち住宅用火災警報器の設置義務がある建物における火災件数は28件、自動火災報知設備が設置されている、又は設置義務がある建物における火災件数は13件となっている。

出火建物における住宅用火災警報器等の設置状況

(単位：件)

設置状況 (年)	住宅用火災警報器						自動火災報知設備						設置の有無が不明		
	設置あり				設置なし		設置あり				設置なし				
	発報あり		発報なし(不明)				発報あり		発報なし						
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5			
焼損程度	全 焼	-	1	1 (1)	1 (1)	1	5	-	-	-	-	-	-	3	3
半 焼	-	1	-	2 (2)	2	3	1	1	-	-	-	-	1	-	
部分焼	2	-	3 (2)	1 (1)	1	3	1	3	-	-	-	1	1	2	
ぼ や	1	2	4 (4)	5 (4)	7	4	4	4	1	3	-	1	4	5	
合 計	3	4	8 (7)	9 (8)	11	15	6	8	1	3	-	2	9	10	

※ ()内の数値は、内数を表す。